



旅からひとく
洋画界の巨人
福沢一郎の
知られざる足跡

2025.

10/18
SAT

12/21
SUN

休館日：毎週月曜日(祝日の場合は開館し、翌日休館) [会期中の休館日：10/20(月)・27(月)・11/4(火)・10(月)・17(月)・25(火)・12/1(月)・8(月)・15(月)]

高崎市美術館
TAKASAKI MUSEUM OF ART
〒370-0849 群馬県高崎市八島町110-27 Tel: 027-324-6125



福沢一郎の旅行カバン 画家とゆく世界の旅



主催：高崎市美術館
監修：福沢一郎記念館
企画協力：群馬県立近代美術館・富岡市立美術博物館・福沢一郎記念美術館

開館時間：午前10時～午後6時 金曜日
のみ午前10時～午後8時(入館は閉館の
30分前まで)

[旧井上房一郎邸 邸内公開]
午前10時～11時、午後2時～4時

[庭園] 10月～11月、午前10時～午後6時
/12月、午前10時～午後5時(入園は閉園
30分前まで)

観覧料：一般600(500)円 大高生300
(250)円

※()内は20名以上の団体割引料金。インターネット割引券をご提示で2名様まで()内の料金でご覧いただけます。※前回展「光のラビリス」半券(割引記載のあるもの)をお持ちいただいた方は()内の料金でご覧いただけます。※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けた方および付き添いの方1名は無料でご覧いただけます。受付で手帳または障害者手帳アプリ[ミライロID]をご提示ください。※65歳以上の方は無料でご覧いただけます。年齢の証明ができるもの(マイナンバーカード、運転免許証、保険証等)を受付でご提示ください。※大学・高校生は大高生料金でご覧いただけます。学生証を受付でご提示ください。※中学生以下の方は無料でご覧いただけます。

※10月28日(火)は群馬県民の日につき入館料は無料です。

次回展割引 本展覧会の半券(割引記載のあるもの)をお持ちいただくと、次回展(「5つの部屋2026」1/10～3/15)を団体割引料金でご覧いただけます。



交通案内：JR高崎駅西口より徒歩3分
駐車場：駅前駐車場、西口サウスパーク、サウスパーク第2、高崎駅東口LABI1高崎駐車場をご利用ください。美術館受付で駐車券を提示等していただくと1時間の無料駐車券をお渡しいたします。

上段：《陽なたの観衆》1978年 富岡市立美術館・福沢一郎記念美術館寄託 夢遊人M.コレクション
下段：左上から《水瓜を持つ男》1955年 群馬県立近代美術館蔵 ニューヨーク滞在時の写真 1965年 富岡市立美術館・福沢一郎記念美術館蔵、《鼓》1950年 富岡市立美術館・福沢一郎記念美術館蔵、《スケッチ 住居附》1943年

高崎市タワー美術館
展覧会のお知らせ

「収蔵作品展 日本画オノマトベ」9月27日(土)～12月21日(日)
お問い合わせ：tel.027-330-3773

福沢一郎の旅行カバン 画家とゆく世界の旅



《群馬県民会館第一級帳下絵》1971年 群馬県立近代美術館蔵「エピローグ 故郷(ホーム)をえがく 群馬の風景」より

2025.10/18 SAT ~ 12/21 SUN

高崎市美術館
TAKASAKI MUSEUM OF ART
〒370-0849 群馬県高崎市八島町110-27 Tel: 027-324-6125

「原始的なものや神秘的なもの、荒々しいものを見て、
何かつかんでいきたい、体当たりしたいと思ってるんです」

(インド旅行を企画してのことば、竹林賢「ぶらり見参」福沢一郎『美術手帖』137号、1958年2月より)

画家福沢一郎(1898-1992)は、旅によって制作のテーマを探索し、表現の幅を広げていきました。この展覧会では、スペイン、ギリシャ、オセアニア、ニューヨーク、中南米、フランス・パリ、そして秩父や故郷群馬など、彼の画業における旅のあしあとをたどります。群馬県立近代美術館、富岡市立美術博物館・福沢一郎記念美術館の収蔵・管理作品と、写真やスケッチなどの豊富な資料を中心に、画家が旅先の風景や人々に向けた鋭いまなざしをさぐるとともに、旅のつど変化する豊かな絵画表現の数々をご紹介します。

プロローグ 福沢一郎と旅

この展覧会は、闘牛場の客席でさまざまな表情をみせる人々を描いた大作《陽なたの観衆》からはじまります。こうした旅先での人間観察を記録し、作品に活かすため、彼はカメラを愛用しました。ここではカメラや旅行カバンなど旅の愛用の品も展示し、展覧会の「旅支度」とします。

1. ギリシャとスペイン 湧き上がる生命

1970年のギリシャ旅行で古代の遺跡や遺物を取材した福沢は、神話の世界に思いを馳せ、抜けるような青空のもとで躍動する神々や精霊などを描きました。また、1978年のスペイン旅行では闘牛に興味をもち、鮮やかな色彩と強烈なコントラストで会場の熱気を表現しました。彼はこれらのモチーフと描法で、力強い生命の輝きを描き出そうとしたのです。

2. オセアニアへ 未知の「未開」への旅

1967年、福沢はオーストラリアとニューギニアへ旅行しますが、その成果を大々的に発表することはありませんでした。ただこのとき制作されたドローイングやスケッチ、写真と、そしてそれらをもとに描かれた小作品からは、この地で感じた自然の強い印象と、過酷な大地で生きる人々への並々なぬ興味がうかがえます。



①《陽なたの観衆》1978年 富岡市立美術博物館・福沢一郎記念美術館寄託夢遊人M.コレクション ②《踊る》1992年 ③《素描 オーストラリア(2)》1967年頃 富岡市立美術博物館・福沢一郎記念美術館寄託



④



⑤



⑥

5. 中南米 輝く生命

終戦後いち早く活動を開始した福沢は、1952年にパリへ渡る機会を得ると、翌年にはブラジルへ、その翌年にはメキシコへ旅し、各地で取材を重ね、現地の風土や人々の生活を描き留め、写真を撮ります。このときの取材が帰国後に花開き、鮮やかな色彩と力強い輪郭線を伴った連作がうまれます。戦後の大きな転換点となった中南米での取材と制作を、作品と資料で振り返ります。

6. 秩父をあるく 戦時下・地学へのアプローチ

1941年4月に治安維持法違反の疑いで逮捕された福沢は、釈放後終戦まで戦争記録画の制作を余儀なくされますが、同じ頃埼玉県秩父地方や、故郷富岡に近い群馬県南部に隣接する地域に興味を抱き、何度も通ってスケッチを重ねます。地質学者も驚くほどの地学的知見と、戦時下の人々の生活へのあたたかな視線が、繊細で旅情あふれる風景画の数々を生み出しました。

7. 若き日のフランス・パリ 青春のあしあと

彫刻家を目指して1924年にパリへ渡った福沢は、自由の境地を闊歩できる絵画へと次第に制作を転換していきます。その過程で、彼はたくさんの写真を撮影し、のびやかなスケッチを多数制作しました。ここでは「シュルレアリスムの紹介者」とよばれることの多い彼が、前衛絵画に踏み入る前の若々しい絵画表現を、写真やスケッチとともにたどります。

8. 福沢一郎の「ディスカバー・ジャパン」—九州の旅と《卑弥呼》／東北・北海道の旅

福沢は国内の旅もおおいに楽しみました。特に九州と東北・北海道には何度か足を運び、感じ入った風景を描いたり、写真におさめたりしています。旅行先でのエピソードとともに、かの地で撮影・制作された写真と絵画をごらんください。

エピローグ 故郷(ホーム)をえがく 群馬の風景

旧制中学校を卒業して以来、一度も故郷に住むことのなかった福沢ですが、群馬に対する愛着は深いものでした。新聞記事の挿絵や旧官営富岡製糸場の遠景、群馬県民会館の緞帳原画など、故郷の風景や人々を描いた作品からは、彼のウィットに富んだ感性とともに、故郷に寄せる強い思いを感じ取ることができるでしょう。

④《ブラカードを持つ女》1965年 群馬県立近代美術館蔵 ⑤《網にかかった人》1959年 富岡市立美術博物館・福沢一郎記念美術館蔵 ⑥《メキシコの女》1956年 高崎市美術館蔵 ⑦《不詳(秩父風景)》1944年 個人蔵 ⑧《タイヤのある風景》1929年 富岡市立美術博物館・福沢一郎記念美術館蔵 ⑨《かまくら》1951年 富岡市立美術博物館・福沢一郎記念美術館寄託夢遊人M.コレクション

関連事業

※10/3(金)午前10時より高崎市美術館(tel.027-324-6125)にて電話受付。※内容の変更、中止となる場合があります。最新情報はホームページ・SNSでご確認ください。

1. 講演会「画家福沢一郎の旅路 その「あ」と「さき」を考える」

福沢一郎研究の第一人者、伊藤佳之氏によるスライドレクチャー。
講師：伊藤佳之(福沢一郎記念館)
日時：11/23(日・祝) 午前10時30分より
場所：高崎市南公民館
定員：50名(予約先着順、参加無料)

2. 講演会講師ギャラリートーク

講師：伊藤佳之
日時：10/18(土)、11/23(日・祝)いずれも午後2時より(要観覧料、要申し込み)
場所：高崎市美術館展示室

3. 対話鑑賞イベント「金曜夜はおしゃべりミュージアム」

対話型アート鑑賞ラボの皆さんとおしゃべりしながら鑑賞します。
日時：11/21(金)午後6時30分より
場所：高崎市美術館展示室
定員：15名(予約先着順、要観覧料)

謝辞

本展覧会のために貴重な作品や資料を貸与され、また、ご協力いただきました一般財団法人福沢一郎記念美術財団 福沢一郎記念館様、群馬県立近代美術館様、富岡市立美術博物館・福沢一郎記念美術館様はじめ、お名前を記すことのできなかった皆様に深く感謝の意を表します。

福沢一郎の旅行カバン 執筆：伊藤佳之(福沢一郎記念館)／編集・発行：高崎市美術館／制作：(株)原人社